

## 低山Ⅲ 足利の山（仙人ヶ岳・赤雪山）



今日も天気

だ、ご機嫌さ  
んの予感で、  
野崎駐車場？

集合。予定の

10名勢そろ

い。会長挨拶、

2台の車に分

乗。箒川を渡

り、東北高速

快適に、諏訪

岳等を右に見

て北関東道は

唐沢トンネル

潜り抜け、足

利ICから松田

川ダムに向か

う。名草ルート

を北上し、松

田尾根を越え

、松田川ダム

へ。赤雪山と

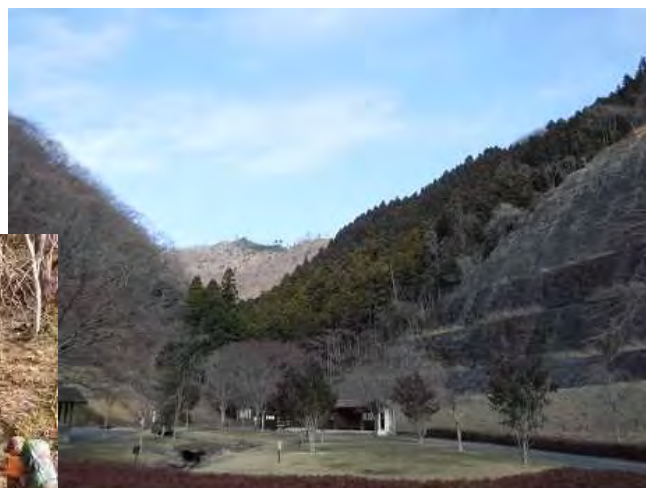
仙人ヶ岳に食

い込む。松田

町の谷に降り

る。遙か先に

ダム姿現る。両側に



松田川ダム湖畔キャンプ場

朝日光る。これから登る稜線が望める。支  
度を整え7時30分出発。

これから登る稜線迄急に谷が迫る。い  
きなり古生層の渓谷。岩上の僅かなル  
ート。谷底は穏やかな作業用道になる。大き  
なカーブ出っ張りヒノキ林。南からの登  
山路仙人東尾根に合流。⑦561m知ヶ  
岳。さらに熊の分岐620mに攀じ登る。  
不動沢からの仙人道が合流。穏やかコナ  
ラの素直な木立。木の葉の敷かれた広い  
尾根。国境稜線だ。その一角が東のピーク。



スタートです。先ず橋を渡ります



ダンコウバイ



ヤッホー！

木製道標山頂案内。平坦山頂。三角点の標柱、四方の角が削られ何等だか不明。大きな木製の道標に集う。記念の写真の時40分。コナラの林眺望なし。  
分岐に戻り、本日のメイン県境尾根縦走にかかる。イキナリ急斜面下降は、木の葉攫い状の斜面。真新しいトラロープ、所々のキンクが手掛かりで安全処理。暫く上



知ヶ岳にて現在地確認



かなりの急斜面 堪えます



気持ち良い稜線歩き

場が変わる。緩い上りで、ヒノキ林の遙か先に四阿発見。急ぎ近づけば赤雪山だ。ヒノキの植林は北側で終わり、南は開け眺望良好。大小山

連れ4人パーティー。ソフトバンク紛いの犬、白くはなくてセピア色。彼らの後追うようにゆっくり歩きを続ければ、尾根の状態は岩



マンサクの花は見頃でした

下を繰り返す。そして想定岩稜待っていた。山慣れ黒羽会員ら手掛かり足掛かりを軽やかに、難なく下降で尾根の上。南東開け大小山見ゆ。北の男体雪山覗く。磁石を振って確かめる。それは男体。左に皇海山が尖がり、その左は袈裟丸山だ。  
小腹が空けば昼食タイム。赤雪山を前にして、齧り付き且つ飲む。いよいよ赤雪、左に非ず。

この辺に三角点があるが特定は難しい。山十祠の岩尾根だ。さらに歩けば「先ず咲く」(マンサク)現れ、疲れを癒す。休んでいると犬の声。お犬様



四阿発見！



今日栃木百名山2座目 赤雪山

や下山口まで配車してくれた。感謝。

今回も山の会の会員の美しい光景に出会う。体調不良の会員のため、方や荷物持ち、方や体の支え補助。疲れているのに、何とも頭が下がる。

\*登山は、物見遊山の活動ではない！ スポーツである！ 定例山行は試合と位置付けたい。体調の訓練を怠らず。体調不安の場合は参加を遠慮してもらいたい。事故発生は、死に繋がる場合があるからである。

(藤田謙三 記)

や佐野唐沢山、諏訪岳に続く関東ふれあいの道だ。山頂には、数パーティールカ登山者が休んで、周りの景色を楽しんでいる。左の急下降路は名草の巨石群への道だ。右へのは、古い木製階段。今日の山の山行終演か。ゆっくり休む。

フィナーレは松田ダムへの下降だ。急傾斜が3段あり、その間2か所は緩傾斜。地図上登山路とは思惑外。直登に非ず。シグザク広くてじれったい。



最後の急斜面を下る



オモイオモイの食事風景



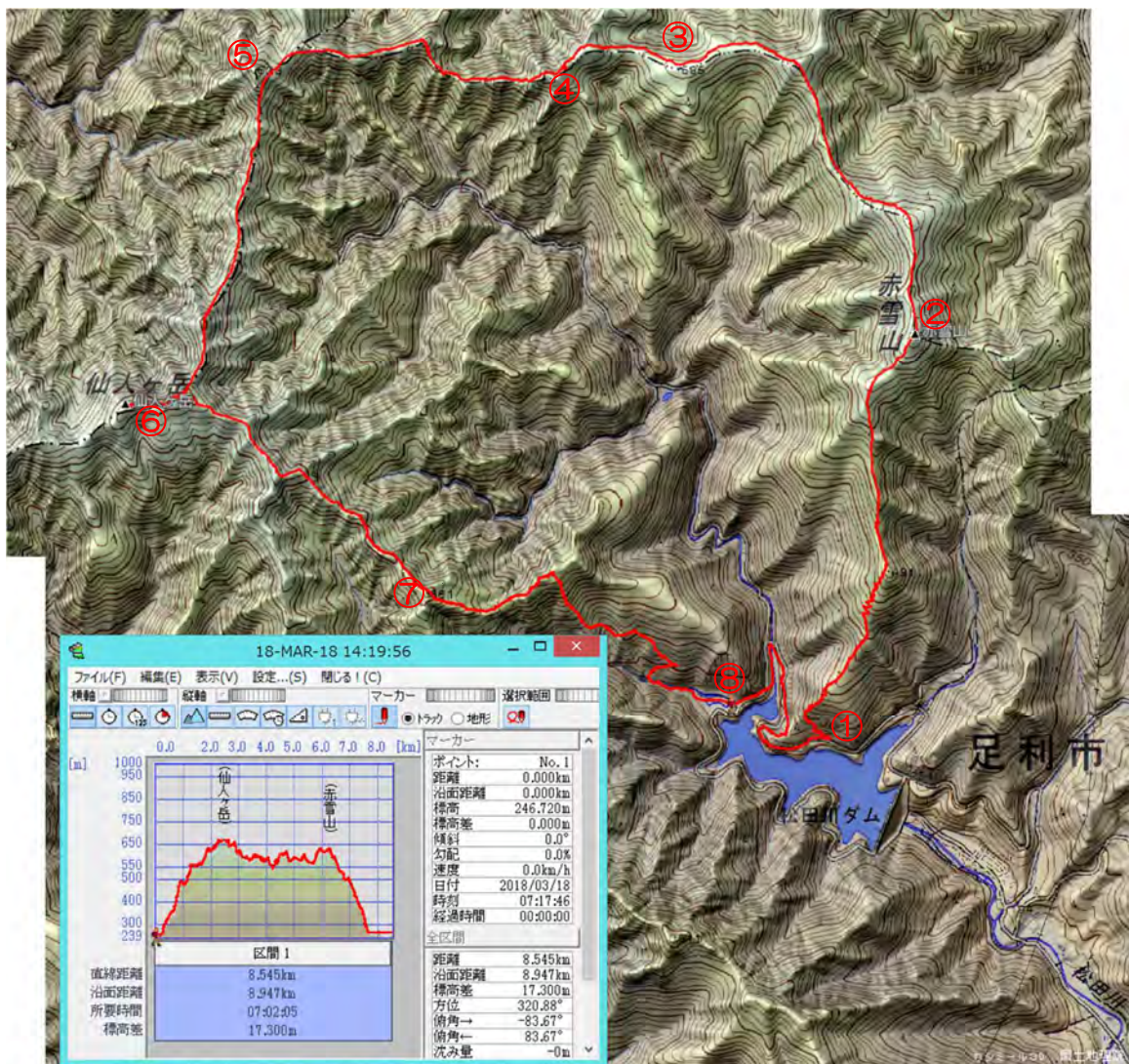
赤雪山登山口に着く



- と き 平成 30 年 3 月 18 日 (日)
- ところ 足利の山 赤雪山 (620m)、仙人ヶ岳 (668m)
- てんき 曇り時々晴れ
- おあし 2,100 円
- あ し 植竹・伊藤車
- 参加者 伊藤文 (CL)、斎藤(SL)、大野(会計)、大金(記録)、藤田 (報告)、植竹(撮影)、伊藤秀、薄井、鐘ヶ江、坂本

○コースタイム

野崎＝①松田川ダム P－②知ヶ岳(P561)－③仙人ヶ岳－④三角山－  
 5:57 7:15～30 8:45 9:35～40 10:30  
 昼 食－⑥P585－⑦赤雪山－⑧赤雪山登山口＝野崎  
 11:45～12:15 12:30 13:10～20 14:25 16:07



カシミール 3D にて作成